

北海道の子供置き去り事件に思う

ずいぶん大騒ぎが続きましたが、最後はハッピーエンドで「さすがに子どもはすごい」で一件落着です。この事件には幾つかの教訓がありますが、どの家庭でも「我が家だったら」と考えたことでしょう。

1. 子どもは、近くにいない

私は、こんなことに何度か遭遇していますが、今回のような状況では、子どもは近くにいません。親に向かって移動するか自宅に向かって行動します。ですから、とにかく近くではなく遠くを捜すのが、子ども発見の近道です。

2. 親のやり方に問題が

子どもを恐がらせたり、寂しい思いをさせるのは、せいぜい3、4才までで小学生になってからあんなことをすると効果がないだけでなく大変な結果を生みます。例えば、無我夢中で走って川に落ちるとか。こうしたやり方をする時は、親の方に相当子どもに対する知識が必要です。素人の親がしてはいけません。

3. ひとつ良い面がある

躰とは「お躰」とも言います。親が正しいとか間違っているとかではなく、躰とは、子どもに「親の姿勢」を示すことです。今回の親にはそれがあったと思うのでそれは良いことです。ただ、年齢に適した対応でなかったこととおそらく感情的に行動したことが問題ではなかったかと。